

堀口 順 (市民クラブ)
公園整備事業
教育問題諸課題

質問 八幡霊園に共同墓地を設置すべきだが、八幡霊園整備事業の今後の方針は。また八幡霊園進入路拡張事業の経過は。

答弁 県内外の公営共同墓地の事例を参考に、市民ニーズなどを踏まえた上で、どのような墓地の形態が望ましいか調査研究していきたい。また新たな進入路については、八幡霊園の敷地西側から既設市道の一部拡幅するルートで調整しており、令和8年度は整備する道路の設計業務を実施し、用地買収や支障物件の補償を行う。

質問 新たな防災気象情報の運用が始まったが、自然災害に対する安全教育の取り組みは。

答弁 高崎市学校防災計画に基づき、各学校で学校防災計画を作成し災害対策を講じているが、学校におけるあらゆる教育活動を通じ、自分の命は自分で守るという防災意識を子どもたちに確実に定着するよう指導を重ねていきたい。

新倉 哲郎 (超党派の会)
学校教育諸課題

質問 令和8年度から学校給食費が無償化されたが、本市の学校給食の地産地消の推進状況は。また、給食の質をどう維持、向上していくのか。

答弁 学校栄養士で構成する地産地消推進班がJ Aと情報交換を行い、得た情報を共有することにより、良質で安全な地場産物の安定確保と活用を推進している。また、食材価格の物価高騰分を公費で負担することにより、追加の負担を保護者に求めることなく、給食の質と量を落とさずに安定した給食を提供している。

質問 ICTを活用したデジタルとアナログの双方の教育効果について本市の見解は。

答弁 デジタルの持つスピード感や視覚的な理解の促進力と、アナログでじっくり取り組む時間のバランス、それぞれの良さを柔軟に組み合わせた教育を展開し、子どもたち一人一人の資質、能力を伸ばせるよう、学びの充実に努める。

高橋 美奈雄 (市民クラブ)
高崎市における公契約条例制定
家庭教育におけるモラルと暴力防止

質問 公契約条例の必要性についての認識は。

答弁 公契約条例が人材不足の解消や地域経済の活性化に寄与する側面があると認識しているが、実効性の担保や事業者の事務負担、地域経済へ与える影響等、検証すべき課題も多く存在する。本市における必要性や制度の在り方について、国や群馬県、他自治体の動向等を慎重に見極めていく必要があるものと認識している。

質問 家庭教育等の悩みを相談したい保護者はどこに支援を求めたらよいのか。また、積極的な周知についての見解は。

答弁 子育てなんでもセンターや児童相談所のほか、子育てS O Sサービスや子育て支援センター等で対応している。積極的な周知は大変重要であり、ネット世代の保護者にも情報が届くようにS N S等を活用し、さらなる認知度向上と利用しやすい環境づくりを進めていく。

横田 卓也 (市民クラブ)
動物愛護の取り組み

質問 小・中学校において、動物との共生を学ぶ機会をさらに充実すべきと考えるが、見解は。

答弁 動物ふれあい推進事業や、やるベンチャーウィークにおける貴重な体験機会を今後も継続して子どもたちに提供していく。併せて、小中学校の生活科などにおいて身近な生き物に親しみをもち、生命を大切にしようとする心を育む学習をさらに充実させていきたい。

質問 公園ルールの見直しや、犬を飼育している市民とそうでない市民が共に利用しやすい公園の環境づくりへの見解は。

答弁 公園内への犬の散歩等による立ち入りは原則として制限を設けていないが、今後公園を利用する全ての人が気持ちよく過ごせるようマナー向上の周知に努めるとともに、犬の散歩利用とそれ以外の利用者の共存を図るため、より良い環境づくりと公園の在り方を研究していく。

荒木 征二 (たかさぎ未来)
本市の映画文化
保育所・園の調理場

質問 来春に第40回を迎える高崎の映画文化の象徴といえる高崎映画祭への本市の支援方針は。

答弁 高崎映画祭は市民有志による高崎映画祭委員会により運営されており、開催に必要な費用の一部を補助している。映画祭の規模拡大や物価上昇等による経費の増加などから、令和8年度は300万円予算を増額している。第40回の周年事業についての具体的な企画内容は未定だが、映画のまち高崎として、節目を飾る魅力ある映画祭となるよう委員会と一致協力し、本市の映画文化の発展につなげたいと考えている。

質問 公立保育所の調理場の暑さ対策は。

答弁 令和8年度から、新たに熱中症対策として保冷ベストを貸与する。既存の設備については、現場で働く職員の声をしっかりと聞きつつ、必要に応じた修繕を行うとともに、耐用年数や機器の状態を見極めながら適切な更新に努める。

丸山 寛 (公明党)
人材確保と働きやすい職場環境づくり
加齢性難聴の早期発見、早期ケア

質問 本市職員の確保には今後さらに工夫が必要となり、子育てや家族の介護などの事情に合わせた働きやすい環境づくりが大切である。フレックスタイム制や時差出勤、週休3日制などの多様な働き方を今後どのように進めるのか。

答弁 子の看護等休暇の対象となる子の年齢を本市独自に18歳まで拡充し、介護面でも要介護者1人につき年間5日間取得できる短期介護休暇などを設けている。フレックスタイム制や週休3日制の導入には、窓口体制維持のための人員確保や職員間の業務負担の偏り等の課題があるが、働きやすい職場づくりに努めていきたい。

質問 医師会などと連携し、加齢性難聴の早期発見と早期ケアを充実させる考えは。

答弁 各自治体において加齢性難聴に対する取り組みが見られるようになったため、その取り組みを参考としながら研究していきたい。

中村 さと美 (公明党)
高崎駅西口ペDESTリアンデッキの維持管理と駅前駐輪場の利便性向上
子ども一人ひとりに寄り添う教育環境の充実

質問 高崎駅西口ペDESTリアンデッキの点検や今後の対策は。また、高崎駅西口自転車駐車場における学生の月決め利用の申し込み方法の見直しやキャッシュレス決済の導入への考えは。

答弁 道路法で義務付けられている5年に1回の定期点検を実施し、状況に応じて雨漏り対策工事等の維持補修を行っている。今後も歩行者の快適な通行空間と安全性の確保に取り組む。また、高崎駅西口自転車駐車場の申し込み方法の変更等については今後検討していきたい。

質問 小学生の通学かばんの重さ対策は。また、学校内外の子どもの居場所づくりの状況は。

答弁 令和8年度更新したタブレット端末は約400グラム重くなったが、置き勉による負担軽減を推進している。また、校内教育支援センターは小・中学校合わせ19校となり、学校外では8カ所の教育支援センターで279人を支援した。

白石 隆夫 (新風会)
高崎自然歩道

質問 高崎自然歩道の今後の整備予定は。

答弁 令和8年度は、利用者の多い白衣大観音近くの公衆トイレの改修工事や案内看板の増設、大型案内マップの更新を行う。さらに、森林の間伐や荒廃竹林の整備、サクラなどの花木の植栽、防護柵や手すりの設置等の安全対策などに加え、これまでに整備した箇所の下草刈りなどの維持管理も継続して実施していく。

質問 高崎自然歩道を小学生の校外学習の場として積極的に活用することを検討できないか。

答弁 高崎自然歩道を歩いて山上碑の見学をしている学校や、地域の方と金井沢碑で現地学習を行ったり、金井沢川の環境調査をしている学校もある。駅から近く、児童が自分の足で自然や歴史について学べるという点では、教育資源として価値の高い歩道である。校外学習を充実させる一つの手段として情報提供していきたい。